

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

<b>1 建物概要</b>			
建物名称	リヴィエールバーステーション小倉タワーBEE	0.7	BEEランク B- ★★

<b>2 重点項目への取組み度</b>				
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価	
1 循環型社会への貢献	3.0 / 5		ふつう	
2 地球温暖化対策の推進	2.1 / 5		がんばろう	
3 豊かな自然環境の確保	1.6 / 5		がんばろう	
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう	
<sup>※</sup> 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

<b>3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア</b>			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2021年SDGs対応版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v.1.1)	
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.8	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.2
<自由記述>		<自由記述>	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 2.2	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 1.3	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	<b>主な指標</b>	
<自由記述>		建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 4	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅: BEIm値、住宅: 0.9	
		外構緑化指数 0 %	
		建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リヴィエールバイステーション小倉タ	階数	地上19F
建設地	福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目2番地25	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、景観計画区	平均居住人員	187 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2023年9月13日
敷地面積	1,035 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 彩創建築設計
建築面積	369 m <sup>2</sup>	確認日	2023年9月15日
延床面積	5,415 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 彩創建築設計

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.3

**LR のスコア = 2.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.2

3 設計上の配慮事項		
総合	・空間のゆとりを確保し、建物外皮の抑制、高効率設備によりエネルギー消費を低減させている。	その他 特になし。
Q1 室内環境	・建築基準法に基づき室内環境のよい計画を行っている。	Q3 室外環境(敷地内) ・特になし。
LR1 エネルギー	・設備システムの高効率化に努めている。	LR3 敷地外環境 ・特になし。
Q2 サービス性能	・空間にゆとりを持たせるような設計としている。	
LR2 資源・マテリアル	・特になし。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 リヴィエールベイステーション小倉タワーレジデンス 新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	-	-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.3</b>
2.1 室温制御		3.0	0.63	4.0	0.50	
1 室温	-	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱性能等級4	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	-	-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式	-	3.0	0.38	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.1	0.30	
1 昼光率	-	-	-	2.0	0.50	
2 方位別開口	南、東の両面に窓がある。	-	-	5.0	0.30	
3 昼光利用設備	-	3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	住居・宿泊部分:カーテン、バルコニー庇を採用した。	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	-	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.2</b>	1.00	<b>2.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	2.0	1.00	
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観	天井高2.6m	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.25	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.13	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.13	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.25	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.25	-	-	
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.2</b>
3.1 空間のゆとり			-	-	<b>3.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり	階高3.09m		-	-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	-		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.3</b>
1 生物環境の保全と創出	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4		4.0	0.40	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	-		-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.40	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		3.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避	-		3.0	0.70	-	-	-
1 消火剤	-		-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)	-		3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
1 地球温暖化への配慮	-		1.4	0.33	-	-	1.4
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善	-		2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	-		2.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	-
2 振動	-		-	-	-	-	-
3 悪臭	-		-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制	-		1.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	-

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

リヴィエールベーステーション小倉タワーレジデンス 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH - 屋光率 0.9% 自然換気有効開口面積率 3.3%
3.1.1 屋光率	0.9%
4.2.2 自然換気性能	3.3%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.6 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.09 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 60.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 #DIV/0! 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 30% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> - 断熱等性能等級 等級4 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 19.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積S <sub>b</sub> ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> 0 m 基準高さH <sub>b</sub> 0 m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 ㎡